

小学校第3学年音楽科学習指導案

指導者 大木 歩

- 1 題材名 いろいろな音色をかんとろう
- 2 題材の目標 打楽器などの音色の響き（奏法）やその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって「まほうをかける音」をつくる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、身近な打楽器の響きの長さや音色を考えながら、音の組み合わせを工夫して、グループごとに様々な発想をもって思い描いた「まほうをかける音」をつくることをねらいとしている。打楽器の奏法を理解させるとともに、同じ楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることで音色が異なったり、打楽器の材質ごとに分類して音の特徴や雰囲気異なったりすることに気付くようにする。その上で、いろいろな打楽器の音を鳴らして、響きの長さや音色の違いを聴き比べて知覚・感受したことを基に、グループ活動において音の組み合わせを工夫することで、本題材が目指す力が育つであろうと考えた。

(2) 児童の実態（計22人）

音楽に関するアンケートは、下記の結果になった。

《意識及び実態調査》

- | | | | | |
|-----------------------------------|----------------|----------------|--------|--|
| 1 音楽で好きな活動はどれですか。 | | | | |
| ・歌うこと | | | | |
| 好き／12人 | どちらかといえば好き／7人 | どちらかといえばきらい／3人 | きらい／0人 | |
| ・楽器を演奏すること | | | | |
| 好き／11人 | どちらかといえば好き／10人 | どちらかといえばきらい／1人 | きらい／0人 | |
| ・リズムをつくること（2学年での「かぼちゃ」の学習を振り返って） | | | | |
| 好き／17人 | どちらかといえば好き／5人 | どちらかといえばきらい／0人 | きらい／0人 | |
| ・聴くこと | | | | |
| 好き／15人 | どちらかといえば好き／7人 | どちらかといえばきらい／0人 | きらい／0人 | |
| 2 打楽器を、持ち方や打ち方を変えて演奏してみたことはありますか。 | | | | |
| ある／16人 | ない／4人 | わからない／2人 | | |
| 3 いろいろな打楽器の音色のちがいを聴いてみたことはありますか。 | | | | |
| ある／12人 | ない／4人 | わからない／6人 | | |
| 4 いろいろな打楽器を組み合わせ鳴らしてみたことはありますか。 | | | | |
| ある／9人 | ない／8人 | わからない／5人 | | |

本学級は、音楽を表現する活動も鑑賞する活動も好きな児童が多い。3年生から始めたリコーダーには、大変興味をもち、意欲的に練習に取り組んでいる。また、打楽器に対する関心も高く、音を出したくてたまらない様子である。一方で、奏法に対する知識・技能及び創意工夫の体験や、音色を感じ取ったり音の組み合わせ方を創意工夫したりする体験には個人差がある。

(3) 指導観

本題材では、教材曲「おかしなすきなまほう使い」において、歌の合間に身近な打楽器を使って「まほうをかける音」をつくる音楽づくりの活動を行う。つくる活動を充実させるために、打楽器の音色の響きを知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、それらを基にしてグループでつくる活動ができるように指導する。その際、音色とともに速度や反復・変化を操作することで、様々な発想をもって思い描いた「まほうをかける音」を工夫してつくるようにさせたい。この活動を通して、今年度の県の学校教育指導方針の努力事項である「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力の育成」を図りたいと考える。併せて、本研究会の主題である「共に親しみ、共に楽しみながら、心をつなぐ音楽を求めて」の「共に」という部分についても、積極的にグループ活動を取り入れたり、良さを認め合う時間を適切に設けたりするなどの工夫を通してねらいに迫っていきたい。

4 教材名 「おかしのすきな まほう使い」(秋葉てる代 作詞/大熊崇子 作曲)

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
歌唱			
器楽			
音楽づくり	○	○	○
鑑賞			
題材の評価規準	打楽器の音色の響き(奏法)やその組み合わせに関心を持ち、様々な発想をもって「まほうをかける音」をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	打楽器の音色の響き(奏法)を聴き取り、その組み合わせのよさや面白さを感じ取りながら、反復や変化の仕組みを生かして思い描いた「まほうをかける音」を工夫し、どのようにつくるかについて思いや意図をもっている。	打楽器の音色の響き(奏法)やその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって「まほうをかける音」をつくる。
規準 学習活動における具体的評価	①打楽器の奏法の理解とともに、同じ楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることで音色が異なったり、打楽器の材質ごとに分類して音の特徴や雰囲気異なったりすることに関心を持ち、「まほうをかける音」をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	①グループ活動において、打楽器の音色の響き(奏法)を聴き取り、その組み合わせのよさや面白さを感じ取りながら、反復や変化の仕組みを生かして思い描いた「まほうをかける音」を工夫し、ワークシートを使って図形楽譜と言葉で表しながら、どのようにつくるかについて思いや意図をもっている。	①グループ活動において、打楽器の音色の響き(奏法)やその組み合わせ方も試行錯誤にながら、反復や変化の仕組みを生かして様々な発想をもって「まほうをかける音」をつくっている。

6 学習活動と評価の計画(4時間扱い)

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	具体的評価規準
第1次 (1)	打楽器の奏法を理解させるとともに、同じ楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることで音色が異なったり、打楽器の材質ごとに分類して音の特徴や雰囲気が異なったりすることを感じ取る。	「おかしのすきなまほうつかい」 ○ 曲想をつかみ、旋律を歌う。 ○ いろいろな打楽器の奏法を知る。 ○ いろいろな打楽器の材質ごとに分類して、音の特徴や雰囲気が異なることを、音を鳴らしながら感じ取る。 ○ 同じ打楽器で音の高さや演奏の仕方を変えると音色が異なることを、音を鳴らして試し、音とともに言葉で説明し合う。	音色	アー①
第2次 (3) 本時は 第2時	打楽器の音色の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって「まほうをかける音」をつくる。	○ グループごとに打楽器の音色の響きやその組み合わせを楽しみ、反復や変化の仕組みを生かして様々な発想をもって「まほうをかける音」を工夫してつくる。 ○ グループごとに、思い描いた「まほうをかける音」がどのような音色の響きと組み合わせなのかを、言葉で紹介し、音で発表する。 ○ 「まほうをかける音」をグループごとに交替で入れながら、全員で通して歌う。	音色 強弱 反復 変化	イー① ウー①

7 本時の学習 (第2次, 第2時)

- (1) ねらい 打楽器の音色の響き (奏法) や組み合わせ方を工夫し, 思い描いた「まほうをかける音」をつくる。
- (2) 準備・資料 打楽器等各種, 黒板掲示物 (めあて, 工夫のポイント, 学習の流れ, 図形楽譜の例), ワークシート (前時までの物, グループ別の物), 図形楽譜用紙, 個人の振り返りカード
- (3) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ (◆学習活動における具体的評価規準)
<p>1 学習の雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で取り扱う教材曲「おかしなすきなまほう使い」を歌う。 <p>2 本時のめあて及び流れをつかむ。</p> <p>(1) 本時の課題を知る。</p>	<p>○手拍子をしながらか、楽しい雰囲気です歌えるようにする。また、「まほうをかける音」をつくりたいという意欲をもてるように声かけをする。</p> <p>○本時は前時までに取組んできた音づくりをもちに、音の出し方や組み合わせ方を工夫して表現することを説明する。</p>
<p>音の出し方や組み合わせ方をくふうして、「まほうをかける音」をつくろう。</p>	
<p>(2) 前時までに学習してきた、「まほうをかける音」づくりで工夫するポイントについて確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音色の選び方 <ul style="list-style-type: none"> ・どの打楽器にするか (木・金属・皮) ・どれくらいのひびきの長さにするか ・高い音か低い音か ・大きい音か小さい音か ○音の出し方 (奏法) <ul style="list-style-type: none"> ・強く音を出すか 弱く音を出すか ・長く音を出すか 短く音を出すか ・速く出すか ゆっくり出すか ・怖い音を出すか かわいい音を出すか →そのために持ち方や音の出し方はどうするか ○音の組み合わせ方 <ul style="list-style-type: none"> ・同時に重ねる ・ずらして重ねる ・一人ずつ順番に音を出す ・くりかえす (反復) ・かえる (変化) <p>(3) 学習の流れを確認する。</p> <p>3 グループに分かれて活動する。</p> <p>(1) イメージに合う音を選び、「まほうをかける音」をつくる。</p> <p>①どんな「まほうをかける音」にするかを各自のイメージを伝え合う。</p> <p>↓</p> <p>②前時に書いた図形楽譜と言葉を基に、思い描く音色の楽器を選ぶ。</p> <p>↓</p> <p>③音の出し方について音を鳴らしながら試行錯誤して決める。</p> <p>↓</p> <p>④つなげ方や重ね方の工夫を考えて、「まほうをかける音」をつくる。</p> <p>↓</p> <p>⑤始め→中→終わりを考えてまとめる。</p> <p>↓</p> <p>⑥練習しながら改善していき、その都度図形楽譜も修正していく。</p>	<p>○前時までのワークシートを見直す時間を設け、自分が見つけた音や、工夫のポイントについて振り返りができるようにする。</p> <p>○工夫のポイントや学習の流れをいつでも確認できるように、表にまとめ、黒板に掲示しておく。</p> <p>○活動前に工夫のポイントを確認しておくことで、イメージに合った音にするためにどんな工夫をしたらよいかを明確にした上で、取組めるようにする。</p> <p>○音色、強弱を工夫のポイントとして活動させる。前時までの児童の活動の実態に合わせて、それ以外の速度や反復、変化についても、適宜指導する。</p> <p>○主体的に活動することができるように、学習の順序や約束ごとを知らせておく。</p> <p>○「まほうをかける音」のイメージについては、前時にグループで話し合う時間を設け、図形楽譜に書かせておく。</p> <p>○各グループが楽器を鳴らし始めたら、CDをリピートでかけ、いつでも曲に合わせられるようにする。</p> <p>○音が混ざらないように、体育館でグループ毎に離れて活動させる。</p> <p>○活動がなかなか進まないグループには、「どんな音をつくりたいのか。」「音の大きさや長さはどうするのか。」「どんな順番に音を出したり、重ねたりするのか。」などと助言し、音のイメージが膨らむようにする。</p> <p>○図形楽譜の書き方の例を、黒板に掲示しておく。</p> <p>○他のグループにも分かるように、図形楽譜の書き方を工夫するように声をかける。</p> <p>◆グループ活動において、打楽器の音色の響き (奏法) を聴き取り、その組み合わせのよさや面白さを感じ取りながら、反復や変化の仕組みを生かして思い描いた「まほうをかける音」を工夫し、ワークシートを使って図形楽譜と言葉で表しながら、どのようにつくるかについて思いや意図をもっている。《イー①》</p> <p>○音をなかなかつけれない児童には、本時までに活動してきた音づくりを、ワークシートなどを見て振り返らせる。</p>

<p>(2) 作品鑑賞会で、グループ毎につくった「まほうをかける音」を発表し、互いに聴き合う。</p>	<p>○つくった音を聴き合う活動が始める前に、音の出し方や組み合わせ方などの工夫を想起させ、それらのポイントに則して他のグループの発表を聴けるようにする。 ○図形楽譜を見せながら工夫したところを紹介し、その後に発表をするように指示する。</p>
<p>(3) 友達の「まほうをつくる音」のよいところや面白いところについて、気が付いたことを発表する。</p>	<p>○よさや面白さを中心に発表できるように、助言する。</p>
<p>4 本時のまとめをする。 (1) 「おかしなすきなまほう使い」の歌に合わせて、全員で交代に、つくった「まほうをかける音」を演奏する。 (2) 次時の学習について知る。</p>	<p>○本時の学習でできるようになったことや楽しかったことなどを振り返りながら、全員で歌ったり合奏したりし、音楽によるまとめをする。 ○次時は、振り返りカードや他の児童からのアドバイスなどを生かして「まほうをかける音」をさらに練り直し、ナレーションと合わせて「まほうをかける音の完成記念演奏会」をすることを知らせる。</p>

8 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>イー① グループ活動において、打楽器の音色の響き（奏法）を聴き取り、その組み合わせのよさや面白さを感じ取りながら、反復や変化の仕組みを生かして思い描いた「まほうをかける音」を工夫し、ワークシートを使って図形楽譜と言葉で表しながら、どのようにするかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>【評価方法】 ・ 図形楽譜と言葉を記入するワークシートの記載内容及びグループ活動中の様子や会話の観察から見取る。 【Cと判断される状況への働きかけ】 ・ 音色の選び方や音の出し方一覧表を提示しながら、対象となる児童が思い描く「まほうをかける音」にふさわしい楽器や奏法を探すための手助けする。 【Aと判断するキーワード】 <input type="checkbox"/> 音色，速度，反復，変化のある思いや意図がわかる「まほうの音」づくり <input type="checkbox"/> グループ活動での積極的な活動・発言 <input type="checkbox"/> 作品鑑賞会での、友達の作品に対するよさや面白さについての気付きの発言</p>